

## 令和6年度学位記授与式 式辞

皆様、卒業及び修了、大変おめでとうございます。

本日は、学部において238名が卒業し、理工学の学士の学位記を受け取りました。大学院においては37名が修了し、理工学の修士及び博士の学位記を受領いたしました。誠にありがとうございます。本学の教職員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし支えてくれたご家族の方々にも、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

本日は年度末の大変お忙しい中、千歳市長 横田 隆一様、千歳市議会議長 坂野 智様、衆議院議員 池田 真紀様、本学同窓会会長 金野 徹様。その他、北海道議会及び千歳市議会の議員の皆様、千歳市役所、本学関連の企業、及び教育機関の方々にもご来賓としてお迎えすることができました。誠にありがとうございます。

本日は、卒業生・修了生の皆さんにとって人生の大きな節目としてかけがえのない式典であり、またご家族の皆様もその晴れの日を楽しみにしておられたことと存じます。この日を迎えられたことは、私ども一同、大変な喜びであります。卒業生・修了生の皆さんには、これからも健康と安全を保ち、新年度からの新たな環境で、ご活躍いただけることを、祈念しております。

例年、この卒業・修了の席でお話をさせていただいている建学の精神について、最初にお話をしたいと思います。平成10年、本学が千歳市による公設民営の大学として、開学した際に、初代学長である佐々木 敬介先生が謳われた、「人格陶冶」、「人知還流」という言葉についてです。

「人格陶冶」とは、ひとりひとりが、人間として正しい生き方を追求し、自らを常に発展させ、いかなる場合でも人間として正しい行動が取れるように自己研鑽することを意味します。正しい倫理観・道徳観で、向上心を高く持ち、前向きに生きて頂きたいということです。

「人知還流」とは、大学で学んだ皆さんが、そこで得られた知恵を、広く社会に役立てること。それにより、社会全体が発展し、より良い世界とすすむ。結果として、その社会の中で、新しい知恵や知識が育ち、それをまた我々が学ぶ。このような、知恵の循環を意味しています。

新しい知恵あるいは新しい知識というと、最近よく言われるのは、技術開発の速度が飛躍的に高まり、あっという間にいろいろなものが出てきては、それ

が改良される。その技術開発の速度に追従するのは大変である。このような話をどこかで聞いたことがあるのではないかと思います。報道における技術の話題や、ネット上で流れている多くの話題などを見ていると、確かにそのような感覚にとらわれます。しかし、それが何を意味しているのか、本質的な技術とは何か、一度立ち止まって、よく考えてみていただければと思います。

人工知能の技術開発を見てみると、人工知能は、いま様々な分野に導入され、色々な作業を効率よく短時間で完了できる便利な道具として世界中に広まっています。実は、この人工知能の研究は、1950年代から始まっており、理論形成が進みました。その後、1980年代に計算システムに搭載され、色々な可能性が見いだされましたが、当時よく使われていた、他の認識・認知関連の技術に比べて優位性が見いだされませんでした。2010年代からは、その技術が見直され、現在、様々な産業で応用されております。多くの分野で活用されているのは、1980年度に比べて、デジタル計算能力の飛躍的進歩によるものです。その事も本質的な変化で、すごいことではありますが、人工知能のアルゴリズム自体は、1980年代から約半世紀をかけて、少しずつ進化してきたものです。突然現れてきたものではありません。技術の根底にある本質を見極め、何が重要で、そこから今後何が生まれてくるのかを考えながら、これからの研究・開発を進めていただきたいと思います。

本学が担当している理工学の領域は、応用化学、生物学、材料工学、電子工学、光科学、情報通信工学、半導体工学、情報科学、システム工学、サービス科学などになります。理工学部から大学院に進学する皆さんは、この中の専門分野における研究をさらに進め、新しい知識や技術の創成を目指すことになります。ぜひ記憶していただきたいのは、自らの専門分野にこだわらず、色々な専門分野にも興味を持って、そこから新しい知識を獲得して、イノベーションを見いだす力を育ててほしいと思います。また、理工学部と理工学研究科から、企業などに就職をする皆さんについては、環境が大きく変化するとは思いますが、自らが獲得した知識を正しく活用し、社会に貢献していただきたいと思います。

それともう一つ、本学は、公立大学という立場から、地域貢献を重要な柱として、積極的に進めています。本日卒業・修了するすべての皆さんには、企業との共同開発、千歳市での様々なイベントへの参加、小中高校への授業参加など、色々なチャンネルを通して、多くの活動に取り組んできたと思います。そ

の意味で、すでに皆さんは、環境がかなり異なる多くの皆さんとのコミュニケーションを実質的に経験しています。コミュニケーション能力とは、単に言葉で相手と会話をするだけではありません。相手の気持ちを尊重すること、他者の意見に耳を傾け、共感や理解を示すこと、言語と非言語を駆使して考えを伝えることなどが必要です。また、その力を向上させるには、特に、非言語コミュニケーションを意識する、共感力を向上させる、明確で簡潔な表現力を磨くことなどが重要です。地域貢献で得られたコミュニケーション力は大変大切で、これから皆さんが生活する環境。つまり、大学や企業、その他様々な環境において、そのコミュニケーション力を保ち、さらなる成長を目指して頂きたいと思います。

最後に、自分の力を信じ、自信をもって自らの世界を切り開いて行かれることを心から祈念し、私からの式辞に代えたいと思います。皆様の、今後の発展を期待しております。

本日は、誠におめでとうございます。

令和7年3月22日  
公立千歳科学技術大学長  
宮永喜一